



1987-2

第 33 号

しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



スズメ（ハタオリドリ科）これほど私たちに身近な野鳥はほかにはいないと思う。朝寝坊をしていると、日当りの良いトタン屋根の上に数羽が群れてチュンチュン、コツコツと騒がしいので目が覚めたという経験は、多くの人たちが持っていると思う。バードウォッチングが盛んになってきた昨今、これほど身近で観察できる野鳥がいるのに、バードウォッチャーたちは……。釣りは「フナに始まりフナに終る」と言われるが、バードウォッチングは「スズメに始まりスズメに終る」のではないだろうか。

（写真と文・清水 勇）

オラが国サの鳥自慢

埼玉県支部には、ふる里を遠くにもつ人もたくさん入会されています。そのような会員の方に、ふる里の鳥を自慢してもらいました。

見島への誘い・山口県 長岡健朗（志木市）

山口県には、ナベヅルの渡来地として知られる八代をはじめとして、数多くの名探鳥地があります。今日は、そのなかから知る人ぞ知る野鳥の楽園、見島を埼玉県支部の皆様にご紹介したいと思います。

見島は、萩市の沖45kmに浮かぶ周囲わずか18kmの孤島です。本土との交通は1日2便の定期船だけで、私たち愛鳥家もこの船に2時間近く揺られながらこの楽園を目指すこととなります。船酔いのする方は、船と聞いただけで足が遠のいてしまうかも知れませんが、その心配は全く不要です。なぜなら、この船の上からすでに楽園は始まっているからです。双眼鏡で大海原を覗けば、カモメ、ミズナギドリ、ウミスズメ、ヒレアシシギ等が数多く見られます。さらに運が良ければイルカの大群に出会うことができるでしょう。舷側のす

ぐ近くを全速で泳ぎ抜けていくイルカの姿は、とても感激的で洋上の探鳥に興を添えます。

こうして、あっという間の2時間が過ぎると船は見島に到着します。見島に着くと、ジーコンボ古墳群をはじめ多くの歴史の跡が目に入ります。この島は大陸との交通の要衝として古代文化が栄えたそうです。交通の要衝という点では人も鳥も同じのようで、ここには渡りの時期になると実に多くの鳥たちが渡って来ます。また森林の鳥、野の鳥、水辺の鳥すべてが見られるのもこの島の特徴です。森では、コウライウグイス、マミジロキビタキ、ムギマキといった華麗な鳥たちが姿を見せ、水田ではセイタカシギやツバメチドリが歓迎してくれるでしょう。海岸を歩けば、コシクシギやオオメダイチドリに出会えるかも知れません。

もし、少し遠出をしてでも珍鳥たちと出会いたいという方がいらしたら、見島での探鳥をお勧めします。ここでは、渡りの最盛期が黄金週間と重なっており、これはもうカモが双眼鏡を背負ってやってきているようなものです。そして、野鳥を満喫した後の新鮮な海の幸での一杯などは、本当に最高の味です。

オナカ
個人的にはとても好きな鳥です。
メーテいこの音い鳥
て、こいふかんじじゃ
ないかと思ひます。



カット
鈴木加代子

地吹雪の中で・北海道 小荷田行男（浦和市）

大きく波打つ大地に森と湿原が、そして牧草地が広がっている。ここは北海道東部に広がる根釧原野、我がふるさとである。

年末低気圧が運んできた吹雪もようやく峠を越え、強風が雪を舞い上げ地吹雪となり、白い影が結氷した湖面を音を立てながら吹き

過ぎてゆく。遠くにはアカエゾマツの黒い森が続き、すぐ手前には枯れたキタヨシが風に吹き倒されている。

氷上にオオハクチョウ成鳥3羽、幼鳥2羽が雪の固まりの様にうずくまっている。オオワシがオオハクチョウの風下20mのところ

降りる。風が吹きぬける。突然、オオワシがオオハクチョウの幼鳥の首を吊り上げる。すぐ放す。オオワシは次の攻撃を試みる。オオハクチョウ成鳥3羽が2羽の幼鳥を取り囲み手出しさせない。オオハクチョウがオオワシに向かってゆく。襲われた幼鳥は羽ばたくが足は立たない。オオワシは飛び上がってなおも攻撃を試みる。果せない。ハンプトガラスが3羽、オオワシのまわりを飛ぶ。オオワシは元の位置に戻る。どこからか尾の真白な成鳥のオジロワシがオオハクチョウとオオワシの上を飛ぶ。オオワシはオオハクチョウの群れをじっと見ている。20分が過ぎる。オオハクチョウはがっちりと幼鳥を囲みオオワシに攻撃の際を与えない。オオワシはオオハクチョウ20羽の群れの風下30mへ移動する。オオハクチョウは幼鳥を真中にして円陣を作る。6分後、オオワシは飛び去る。5羽の群れも20



カット・村上由香

羽の群れも白い長い首を曲げてうずくまっている。5羽の群れにオオワシの亜成鳥が近づき風下10mに降りる。オオハクチョウ5羽は首を上げる。3分後、オオワシの亜成鳥は飛び去る。オジロワシの成鳥が上空を旋回する。オオハクチョウのふたつの群れは、何事も無かったかの様に地吹雪の中、雪の固りの様にうずくまっている。夕方、オオハクチョウは氷上を北西の方向に飛び去った。

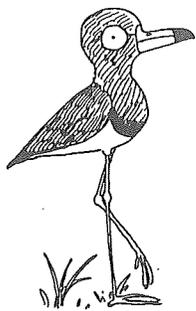
鍋田干拓地のケリ・愛知県

木村 義人（春日部市）

名古屋からこちらへ移り住んで1年程が過ぎ、その間に多くの鳥たちと出会いましたが、いまだにあの「キキッ」という金属的な鳴き声を耳にしたことがありません。埼玉県では冬季に少数が渡来するというケリの声です。

名古屋市の西部を流れる庄内川と三重県境を流れる木曾川の間、かつては広大な干潟が広がり水鳥たちのオアシスであったのですが、近年工業用地や農地として次々と埋め立てられ、現在では庄内川河口に50ha余りを残すのみとなってしまいました。

さて、そのような埋立地の中で愛知県の西南端にあたり木曾川の東に位置するのが、以前よく通った鍋田（なべた）干拓地です。ここを訪れるとまず最初に出迎えてくれるのがケリの鳴き声です。地上にいる時には目立たない鳥ですが、飛び立つと翼の白と黒のコン



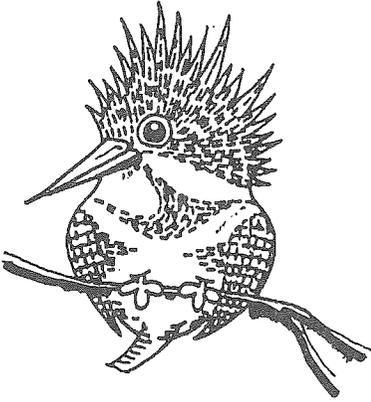
カット・比企 裕

トラストが美しくハッとさせられます。また気の強いことで有名なこの鳥ですが、特に繁殖期にはその傾向が著しくなわばりの上空を鳴きながら旋回し、巣のそばへ人や犬が近づくと頭上をかすめるように攻撃してきます。ある日、車の中から観察しているのにもかかわらず大きく口をあげ何度も向かってきたのには驚きました。また、ここでは夏も残っているチュウヒやトビ、カラスにも果敢にも向かっていきます。このような時は、その声を聞きつけた付近で繁殖している仲間が応援にかけつけ、集団で追っ払ってしまいます。

ケリは以前、東北地方に多く生息していて、昭和30年代頃から東海・近畿地方で増え始めたそうですが、何故関東地方をとばしていったのか不思議でなりません。埼玉県にもケリの繁殖できるような場所はたくさんあると思うのですが…。東海地方で過密状態となったケリがこちらへ移って来てくれればと思いますが、先住の鳥たちにはもちろん、人や犬にまで御迷惑をおかけするのではないかと心配してやみません。

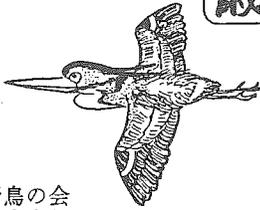
A HAPPY
NEW YEAR '87

渡辺 周月



今年 最終の探鳥会は朝から
さむ一日でしたが、
いろいろと鳥達人との楽しい思い出
この一年 大変な年になりました
ありがとうございます
3時からの 打ち明の会 之はパーティー
と楽しい会でした 帰る 下り 酔気
帰り道、外の空気が つたつたが、 暖
気持がいい
来年も 楽しい探鳥会でありたい
思っています
よい 良い 新年を お迎え下さい

賀 正



日本野鳥の会
甲府支部
支部長 許山 昭

1987
鶺鴒
賀 正

一九八七年二月

Greetings of the Season
and Best Wishes for a
Happy New Year

今年もよろしく

おめでとう

春を待つ

お花見を 楽しみます
お正月を 楽しみます

お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます
お正月を 楽しみます

明けましておめでとう
お正月を 楽しみます

A Happy New Year!

旧年中は大変お世話になりました。
5 and 4 also 4649.

早速ですが 昨年来年に 関する事と
素人の私なりに いろいろ 調べてみたのですが
疑問点が ほとんど 増えるばかりで、
そのうち 下記の 5点 は 母に 話を 聞かされた
範囲です。 せめて 先輩 諸氏の 適切な
おん 解説を 戴ける 様 お願い
申し上げます。

質問1 「キビタは 男の子ですか? それとも
女の子ですか?」

質問2 「女傭の 田中 祐子は トリが 大好きな
特にお気に入りの トリが いるというが、
何のトリでしょうか?」

おまけに 巻を 巻えし ほか ほか、 ン等 内家
の 解説に 基づいた 字説を 聞かされたが、
夜も 眠れませんでした。 因に 3月 とうそ お願を。

正 藤 嘉 一 郎

こしゃくな 若
者の言う事は 無
視し、今年も 長
靴をはいて 街中
を歩き、 野暮っ
たい 鳥見人の イ
メージ定着をは
かります。 よろ
しく。
恐怖の 長靴人間

オシドリ ◇11月7日、森林公園山田大沼で♂4羽♀7羽(今井明巨)。
 アメリカコガモ ◇12月20日、久喜市の昭和池で♂1羽(中島康夫)。
 トモエガモ ◇11月16日、久喜市の昭和池で♂1羽(山口 博)。◇12月20日、同池で♂10羽(中島康夫)。
 オカヨシガモ ◇11月24日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(北川慎一)。
 アメリカヒドリ ◇久喜市の昭和池で♂2羽(中島康夫)。
 カワアイサ ◇11月24日、本庄市の阪東大橋下流で♀5羽(北川慎一)。
 ハヤブサ ◇11月22日、本庄市の阪東大橋上空で1羽(北川慎一)。
 チョウゲンボウ ◇11月16日、本庄市の利根

川で2羽(北川慎一)。◇12月10日、上福岡市中福岡の畑地で1羽。野ネズミを捕える(小西英祐)。
 タゲリ ◇11月3日、岩槻市増長で7羽(石川敏男)。◇11月11日、川越市下小坂で43羽(鈴木暁子)。
 コミズク ◇11月24日、本庄市の利根川河原で2羽(北川慎一)。
 キレンジャク ◇12月14日、坂戸市の城西大学傍で1羽(新井 哲)。
 ジョウビタキ ◇10月31日、川越市下広谷で♂2羽(鈴木暁子)。◇11月1日、鶴ヶ島町の高倉の林で3羽(宮内武昭)。
 ヒガラ ◇11月24日、熊谷市の報恩寺で1羽(今井明巨)。
 カシラダカ ◇11月3日、浦和市の円正寺近くの農耕地で5羽(近藤 崇)。
 ミヤマホオジロ ◇12月20日、蓮田市黒浜の東埼玉病院の林で1羽(中島康夫)。

野鳥情報欄について

ある探鳥会で、少年が野鳥情報欄担当のFさんに何か質問しています。

少年「僕、野鳥情報を送ろうと思っているんですが、どんな内容だと載るんですか」

F氏「そうだねえ、まず(1)埼玉県で珍しい、数が少ない、そんな情報は採用します。次に(2)その地域で珍しい鳥の情報も採用しています。たとえば、越谷市でツラコバトは珍しくないけれど、寄居で出れば珍しいので、それは採用していますよ」

少年「じゃあ、珍しい鳥なら絶対載るんですね」

F氏「極めてまれな鳥の場合、写真等の証拠が欲しいなあ。それから、ワシタカ類やフクロウ類の場合、保護の立場から公表しないときがあります」

少年「珍しい鳥の情報しか採用されないんですか。僕は全くの初心者なので、実はどれが珍しい鳥なのかわからないんです」

F氏「(3)季節を感じる内容のものも大歓迎だよ。たとえば、今年初めてツバメを見た、ウグイスが初めてホーホケキョと鳴いた、

カイツブリが巣を作り始めた、カッコウを聞いた、モズが高鳴きを始めた等も大事な情報なんだよ。そのほか(4)おもしろい行動を見たというのもいいなあ」

少年「(3)や(4)なら僕も報告できそうです。でも報告した人の名前を見ると、同じ人や役員の人が多いんですが、僕でも載りますか」

F氏「もちろん！よく誤解されるのはそこなんだ。同じ種類の鳥に同時に何人もの報告者がいて、紙面の都合で全部が載せられない場合は、常連の人や役員はカットしているんですよ。裏返して言うと、常連や役員しか載っていないときは、その報告しかなかったということなんです」

少年「へえ、そうなんですか」

F氏「どんどん情報を寄せて下さい。載らなくとも、研究部に記録は蓄積されています。そして、その記録が多いほど、野鳥保護に役立つんだよ。あ、連絡はできれば葉書(事務局の住所はp.8参照)だとありがたいな。それよりもギャルが沢山来る探鳥会はだね…」これ以降はギャル保護の立場から公表はさしひかえたいと思います。どうしてもという方は、F氏へ直接どうぞ。彼は、背が高くナナハンライダーです。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意ください。
小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以下=50円

2月8日(日) 新座市 平林寺境内

— 武蔵野の面影残す平林寺 —

午前9時東武東上線志木駅南口集合。
(東上線朝霞台8:46発→志木8:49着/
東上線川越8:23発→志木8:40着)。午後1時ごろ解散。参加費は無料ですが、入山料として、大人200円、中学生以下100円が必要です。広い雑木林ではルリビタキ、ビンズイ、アカハラが期待できます。
(担当=藤原寛治、長谷きみ子、黒田佳子)

2月8日(日) 滑川町 森林公園

— 何種類のカモを見つけられますか —

午前9時30分森林公園南口集合(東武東上線準急川越8:38発→森林公園9:07着。駅前より東武バスで南口行き9:17発に乗車、9:27着が便利。車は南口に大駐車場があります)。入園料350円が必要です。山田大沼をうめる4,000羽のカモが見どころです。(担当=今井明巨)

2月11日(祝) 大宮市 高木地区

— 大宮の新探鳥地 —

午前8時45分大宮駅西口階段下集合。車の方は東武バス停高木に9時集合。田圃や林の周辺を歩き、タゲリ、カモ、冬の小鳥達を探します。(担当=大橋義男)

2月15日(日) 本庄市 阪東大橋南詰

— BW&いも煮会 —

午前9時高崎線本庄駅北口集合(大宮7:

44→熊谷8:25→本庄8:49着)。午後2時ごろ解散。多数のカモやコハクチョウなどを見た後は、ナベを囲み鳥談議に花を咲かせましょう。いも煮会参加の方は、準備の都合上2月10日までに、萩原正二まで連絡して下さい。Tel=0495-33-7410。材料費100円も必要。(担当=萩原正二、北川慎一)

2月15日(日) 浦和市三室地区(浦和市立郷土博物館共催・定例)参加費無料

— “まさか”がある2月の三室 —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。一番寒くなる2月は三室でも意外な鳥が見られます。昨年はクイタダキやタゲリが見られました。

(担当=楠見邦博、福井恒人、渡辺周司)

3月1日(日) 白岡町 八幡様周辺

— 白岡町で初めての探鳥会 —

午前9時東北本線白岡駅西口集合。(大宮8:37発→白岡8:52着)。午後1時ごろ解散。神社周辺の雑木林を通り元荒川迄歩き、シメ、メジロやイカルチドリ、セグロカモメなどを期待します。

(担当=浅田徳次、中島康夫)

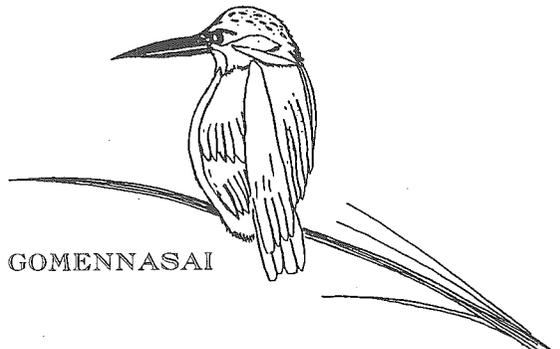
3月8日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前集合。冬鳥になごりをおしむ。

〔訂正とお詫び〕

先月号(第32号)に、誤りがありました。下記のように訂正し、お詫びいたします。

p.6 右列 231 を 232 へ、同じく 236 を 237 へ、同じく 253 を 254 へ、p.8 左列 199 を 189 へ訂正いたします。



GOMENNASAI

探鳥会報告

12月7日(日) 鳩山町 物見山

△ 93人 天気 晴 鳥 トビ オオタカ ノスリ キジ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウズイス キクイタダキ エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(31種) 快晴、微風で期待したとおりにオオタカ、ノスリなどが出現。中でもオオタカは、ゆうゆうと帆翔する姿を全員にたっぷり見せてくれた。また、松林では、かわいいカラ類などの混群が皆の目を引き付けた。

12月14日(日) 熊谷市 大麻生

△ 13人 天気 曇 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ コガモ ハマシギ クサシギ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(27種) 大麻生から明戸へと川岸を歩いた。ユリカモメが30羽ゆっくりと上流へ飛び、明戸のカワセミ君も現われて道案内。そして、カワセミ君は中洲のアンに止ってくれて、久しぶりにじっくり観察させてくれた。

12月21日(日) 浦和市 三室地区

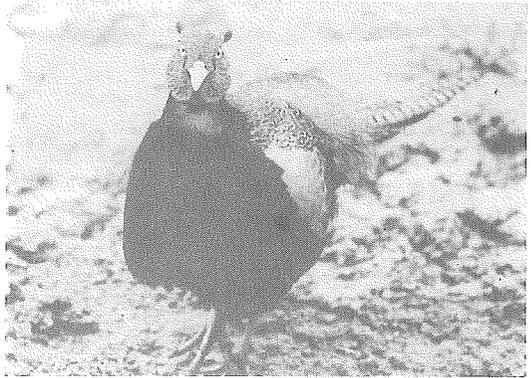
△ 55人 天気 曇 鳥 コサギ チドリ SP ハマシギ クサシギ タカブシギ イソシギ ダシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト タヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス(31種) 予想外の曇天でとても寒かったが、芝川のハマシギの群れ、ユリカモメよりずっと大きいセグロカモメ、雑木林の聞きなれない声の主だったアカハラなどが1年の探鳥会の締めくくりをしてくれた。支部の取材のために本部から来た塚本常務理事も、三室の鳥を堪能し、数の多さに驚いていた。



同姓ですが親子ではありません。鳥仲間です。
(大麻生探鳥会にて)

12月6日(土) 野鳥写真教室

△ 23人 丸山政弘さんがすばらしいスライドを披露してくれた。彼が言うことには、会社の昼休み時間や、“オレンチの裏”で撮影できるんですって。ヤマセミを撮影に行ったらオシドリがいたので、しょうがなく代わりに写したんですって。キジがどんどん近づき過ぎて、写すのに苦労したんですって。秩父って、本当にいいところ。



キジ・丸山政弘撮影

12月21日(日) “86”にサヨナラをする会

△ 第I部47人 第II部33人 「守ろうワシタカ」など2本の映画を上映し、オオタカ保護運動の当事者の一人である栃木県支部事務局長中山正匡さんの話を聞いた後、席上集められたオオタカ保護募金が手渡された。

席をあらためて開かれた第II部のサヨナラパーティーでは、1年間の探鳥会など活動の跡のスライド映写や野鳥談義でおおいに盛り上がった。

午前中の探鳥会から引続いてがんばった幹事さん、ご苦労様でした。

連絡帳

県内初の協定旅館誕生

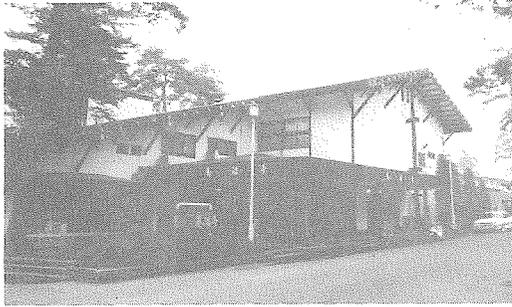
(財)日本野鳥の会協定旅館は全国各地にあります。埼玉県内では初めて、長瀬町の「養浩亭」(新井弥平社長)＝写真下＝からの申し出でを検討した結果、県支部として推薦する事を役員会で決定、協定旅館が誕生する事になりました。会員は割引料金などの特典を受ける事ができます。

座布団から箸袋、グラスなどにまで野鳥のマークを入れ、新井社長は「将来は秩父の野鳥保護の核に」とはりきっています。

住所・〒369-13 秩父郡長瀬町長瀬

(県立自然史博物館前)

電話・0494-66-3131 (代)



評議員が再任されました

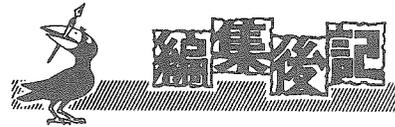
本部の評議員会に出席して全国の代表者たちと共に野鳥の会の基本方針について討議する評議員として、埼玉県支部の代表は海老原美夫副支部長が再任されました。(普通こういう記事には顔写真がつくのですが、どうぞおもしろくないので省略します)

会員数は

1月20日現在627人です。

活動報告

- 11月30日 自然観察指導員埼玉連絡会議に出席(楠見)。
- 12月13日 協定について話し合い「養浩亭」に宿泊(海老原)。
- 12月14日 総務部会議(支部代表者会議、写真クラブ構想など)。役員会(各部の報告、評議員、協定旅館、3月の行事など)。
- 12月20日 年末パーティー最終打合せ(中島、楠見、海老原)
- 12月20日 冬鳥調査票発送とガンカモ調査準備作業(研究部)。
- 12月22日 埼玉新聞「野鳥ふれあいの旅・第2部」原稿と写真持参。1月6日から連載開始。
- 12月27日 『しらこぼと』1月号袋詰め(ボランティア6人)。29日発送。



年末の帰省の折、途中下車して伊豆沼に立ち寄りました。やはり暖冬のせい、前の年来た時7羽もいたオジロワシがサッパリ。ガンもチラホラ。おまけに強風が吹きあれるという何ともいえないコンディション。でも現地の鳥友のS氏に案内してもらい、雪の田圃で嘴を真黒にして餌をあさるガンの姿に、沼とは違った一面を見せてもらいました。

(藤原寛治)

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正清)

『しらこぼと』

1987年2月号(第33号)

頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)